

防災（知識・技術や活動）が身に付くために【防災のプロはいない】

防災に関わる⇒防災を勉強する⇒防災の連続講座を受ける⇒防災を感じる（知らないことに）・恥をかく⇒防災の話をするようになる（皆の前で手探り状態）⇔地域の防災組織に関わる⇒防災に関する情報（アンテナを張る）を得る⇒防災活動で手本になる各地域を見学（訪問）する⇒訪問した関係者に防災の事、運営の在り方など内容を尋ねる⇒その中から防災活動に活用できる良い事柄を取り入れる⇒防災運営の方針を整理し、固める⇒防災に関する資格を取得する⇒地域の防災組織で実行する⇒地域の防災組織に関わるスタッフ数を増やす⇔一方地元の自主防災組織を立ち上げる決意をする⇒自分の眼力で仲間（スタッフ）を募る⇒防災資料を作る（内閣府の資料も含め防災に関する事柄を調べる、人に尋ねる、観察する、体験する、考える）⇒定期的（1か月に一回以上）な会議を催す⇒アフターファイブを共にする（コミュニケーションを図る）⇒振り返る⇒年度別防災活動計画を立てる⇒地元での防災活動を実行する⇒振り返る⇒他防災団体の会員になる⇒刺激を受ける（気づく）⇒整理する⇒講演会（プレゼン）で話す⇒防災講座のリーダーを務める⇒反応を見る⇒防災資料を作る（同上）⇒防災活動の展開方法を工夫する（どこに焦点を合わせるかが難しい）⇒世間に色々な形の防災を発信する⇒防災活動の後継者を育てる⇒いろいろな経験を積み重ねたら身を引く⇔別な防災活動を模索する⇒一緒に活動できる仲間を作る（準備資料作り、パフォーマンス、後処理を担う人）⇒防災活動を発揮する⇒各地の市町村や別組織で防災活動を展開する⇒防災活動の輪が広がる⇒**防災が身に付く**⇒さらに進む（生涯学習的）⇔ワーク・ライフ・バランス⇒結論＝世の中の活動においては、携わる分野は違っても手法は同じだと思います。